

2016年9月26日

開発途上国における医薬品アクセスへの取り組み

日本製薬工業協会
会長 畑中好彦

開発途上国における医薬品アクセスを阻害する要因として、知的財産権や価格が国連ハイレベルパネル等で取り上げられ、去る9月14日には同パネルより医薬品アクセスに関する報告書が公表されました。

日本製薬工業協会（以下、製薬協）は、医薬品アクセスの阻害には複層的な要因が存在すると認識しており、アクセスの向上には医療財源の確保、医薬品の研究開発、医療インフラの整備やヘルスケア人材の能力開発、ヘルスリテラシーの向上まで多面的な対応が必要と考えております。このような認識のもと、製薬協は各国の製薬産業団体と共同で、医薬品アクセス向上に向けたこれまでの我々の経験や現在の取り組みに基づく具体的な提言を同パネルに提出しています（下記リンク先参照）。

<http://www.ifpma.org/resource-centre/un-high-level-panel-on-access-to-medicines-submissions-a-b-c-26-february-2016/>

同パネルは医薬品アクセスについて議論を行う重要な機会でありましたが、パネルの報告書は幅広い要因をバランス良く検討した提言になっていないことを遺憾に思います。

以下に、開発途上国における医薬品アクセスに関する各事項について、製薬協の考え方と共に会員会社の取り組みを示します。

1. 知的財産権と医薬品アクセスについて

製薬協は、開発途上国における医薬品アクセスを改善するためには、その源泉となる医薬品創出のための研究開発が必要であると考えます。また、研究開発成果が特許制度で適切に保護されていることが、研究開発や事業化に向けた投資に対して大きなインセンティブとして働くことから、そのインセンティブを損なわないよう注意深く知的財産制度を運用する必要があります。

製薬協会会員会社は、開発途上国の患者さんに顧みられない熱帯病（以下、NTDs）の治療薬並びに HIV、結核、マラリア等の感染症治療薬を届けることを重要な課題であると認識し、特許制度による研究開発成果の保護を前提として、これらの疾患に対する治療薬の開発や、官民パートナーシップ¹⁾等による医療環境並びに保健システム等の改善など、医薬品アクセスの改善に貢献しています。また、医薬品アクセスの改善に必須と判断される場合には、権利行使の是非、ライセンス条件の緩和などフレキシブルな特許権の運用²⁾により、医薬品の適切な調達を促進しています。

なお、製薬協会会員会社は、パンデミック等の非常事態下においては、世界中の国・団

体・企業と連携し、特許権の有無に関わりなく必要な医薬品を必要な患者さんに供給し、その社会的責任を果たしていきます。

また、製薬協は、革新的新薬の持続的な創出のためには、創薬イノベーションを価格によって適正に評価する仕組みが必要不可欠であると考えます。一方で、製薬協は一人あたりの平均所得が低い開発途上国等において、医薬品の価格が患者さんの医薬品アクセスに影響を及ぼす事例が存在することも認識しています。

このような状況の中、製薬協の会員会社は支払い能力に応じた段階的価格の設定 (tiered pricing) や無償提供等³⁾ を行うことで、多くの患者さんの医薬品アクセスが確保される取り組みを進めています。

2. 研究開発の推進について

製薬企業が先進各国・地域で問題となっていない疾患に対する新薬開発への研究開発投資を行っていないとの主張がありますが、製薬協は、産官学連携を通じて、継続的な研究開発に取り組める仕組みを支援しており、製薬協会員会社はこれらの仕組みを通じ、NTDs 等の開発途上国に多くみられる疾患に対する新薬の研究開発⁴⁾ を進めています。

3. 医療インフラの整備、人材・能力開発、ヘルスリテラシー向上について

製薬協は、医療保険制度の未整備、医療インフラの不備や人材・能力開発、ヘルスリテラシーの不足等が医薬品アクセスを妨げている主要な要因であると認識しています。

製薬協および製薬協会員会社はこうした課題に対し、今後も世界の国・団体・企業等のステークホルダーと連携し、開発途上国における医療インフラの整備、人材・能力開発に向けた実務指導・教育訓練、疾患啓発活動⁵⁾ を実施することにより、当該国における医薬品アクセスの向上に貢献してまいります。

1) 官民パートナーシップの具体的事例

WIPO リサーチコンソーシアム (WIPO Re:Search) への参画

エーザイと武田薬品工業は、世界知的所有権機関 (WIPO) が主催する NTDs 治療薬開発のための国際共同事業「WIPO リサーチコンソーシアム」に加盟しました。各加盟機関は、NTDs やマラリア、結核の薬剤・候補の知的財産や研究開発ノウハウなどを無償で提供し、研究者・機関と共有することで、治療薬開発につなげます。このデータベースに登録された知的財産は、熱帯病治療薬開発における利用、そして最終的には後発開発途上国における製品の販売においても、ロイヤルティー・フリーで提供されます。

GHIT Fund (公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金) への参画

製薬協会会員会社 5 社 (アステラス製薬、エーザイ、塩野義製薬、第一三共、武田薬品工業) は、2011 年に、日本政府 (外務省、厚生労働省)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の官民パートナーシップにより GHIT Fund を共同設立しました。GHIT Fund は顧みられない熱帯病と三大感染症 (エイズ、マラリア、結核) に対する治療薬、ワクチン、診断薬の研究開発支援を目的とする、世界初の、政府、企業、市民によるグローバルヘルス研究開発基金です。その後、設立時に出資参加した 5 社に加え、新たに製薬協会会員会社 5 社 (中外製薬、大塚製薬、協和発酵キリン、大日本住友製薬、田辺三菱製薬) を含む国内外の製薬企業など 11 社が参画しました。

GHIT Fund は 2016 年 3 月までに、64 のプロジェクトに総額でおよそ 64 億円の研究開発助成を行いました。疾患領域別では、助成額のおよそ 40%強が顧みられない熱帯病、30%強がマラリア、20%が結核のプロジェクトに助成されました。

顧みられない熱帯病に対するロンドン宣言への参画

エーザイは、世界の大手製薬企業 12 社とともに、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、世界保健機関 (WHO)、米英政府、世界銀行、および NTDs 蔓延国政府と国際官民パートナーシップを構築し、2020 年までに NTDs 10 疾患の制圧に向けて共闘していくという共同声明「ロンドン宣言」を発表しました。

2) フレキシブルな特許権の運用の具体的事例

特許権に対する考え方

アステラス製薬は、保健医療へのアクセス改善の重要性に配慮し、大きな経済的課題がある国において特許出願および特許権の行使を行わないことを基本的な考え方としています。https://www.astellas.com/jp/corporate/comp_policy/access_to_health.html

塩野義製薬と共同で新規 HIV インテグラーゼ阻害薬であるドルテグラビルの研究開発を行い、Tivicay® (製品名) としてグローバルに販売している ViiV Healthcare Ltd. では、the Medicines Patent Pool の活動を通じ、最貧国に対して Royalty Free license を与える等、アクセス改善に努めています。

<https://www.viivhealthcare.com/media/press-releases/2014/april/viiv-healthcare-announces-new-initiatives-to-improve-access-to-dolutegravir-licence-to-the-medicines-patent-pool.aspx>

3) Tiered Pricing 及び無償提供の具体的事例

新規抗がん剤へのアクセスを向上させるための Tiered Pricing (所得階層別価格設定)

エーザイは、インド、フィリピンなどにおいて、新規抗がん剤を患者さんの所得水準に合わせた複数の段階的価格を設定し (Tiered Pricing)、より多くの患者さんが革新的新薬にアクセスできるようにする試みをしています。

リンパ系フィラリア症治療薬の無償提供および診断キットの提供

エーザイは、2010年11月に世界保健機関（WHO）に対してリンパ系フィラリア症治療薬「ジエチルカルバマジン」（DEC）22億錠を2020年まで無償提供することに同意しました。それに基づき、インド自社工場にてDEC錠を製造し、2013年10月よりリンパ系フィラリア症（LF）が蔓延している国々に向けてDEC錠の提供を開始しました。またLF制圧の達成度を評価し、集団投与（MDA）の終了を判断するための診断キットを無償提供する官民パートナーシップが2016年2月より開始され、エーザイもこの新しいパートナーシップに参画しております。エーザイは、DEC錠と診断キットの供給を通じてグローバルなリンパ系フィラリア症制圧プログラムに貢献しております。

4) 開発途上国に多く見られる疾患に対する新薬の研究開発の具体的事例

国際的脅威となるウイルス感染症への対応

富山化学工業は、新しいメカニズムを有する抗インフルエンザウイルス薬のファビピラビルについて、新型又は再興型インフルエンザウイルス感染症（ただし、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効又は効果不十分のものに限る。）に対して、2014年3月に国内承認を取得しました。本剤は動物試験の結果から各種RNAウイルスへの効果が確認されており、西アフリカで発生したエボラウイルス感染症に対して日本政府、各国政府、医療機関の協力の下、薬剤提供を実施しております。

協和発酵キリンは、北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンターとエボラウイルス感染症向けの抗体医薬を共同で開発しています。このエボラウイルスに対する抗体は5種類のウイルスすべてに対して効果を発揮することが期待されており、協和発酵キリンの抗体技術を使って医薬品としての実用化を目指しています。

新規マクロライド系抗菌薬の開発

富山化学工業は、新しいマクロライド系抗菌剤「T-4288」（一般名：ソリスロマイシン）を開発しています。本剤は、Cempra, Inc.（本社：米国ノースカロライナ州、CEO：Prabhavathi Fernandes、以下、Cempra社）が創製した新規マクロライド系抗菌剤であり、既製品のマクロライド耐性の肺炎球菌、マイコプラズマに対し強い抗菌活性を示すと共に、比較的高い免疫調整作用（抗炎症作用）を有する薬剤です。Cempra社は細菌性の市中肺炎適応（耐性菌含む）で、平成28年4月に米国食品医薬品局（FDA）へ、同6月に欧州医薬品庁（EMA）に新薬承認申請をしました。

富山化学工業は、Cempra社と「T-4288」の日本における開発、製造及び販売の独占的権利に関するライセンス契約を平成25年5月に締結。臨床第I相試験および臨床第II相試験において有効性および安全性が確認されました。現在、第III相試験を準備中です。<http://www.toyama-chemical.co.jp/news/detail/160526.html>

HIV感染症に対する治療薬の開発

塩野義製薬とViiV Healthcare Ltd.（以下、ViiV社）は、共同で新規HIVインテグラーゼ阻害薬ドルテグラビルの研究開発を行ってきました。2012年12月以降、日米欧を含む各国の審査機関に対してViiV社がドルテグラビルの新薬承認申請を行い、現在、Tivicay®（製品名）としてグローバルに販売されております。また、ドルテグラビルを含む3剤配合剤についても、2013年10月以降、日米欧を含む各国の審査機関に対してViiV社が新薬承認申請を行い、現在、Triumeq®（製品名）としてグローバルに販売されております。

結核に対する治療薬／ワクチンの開発

大塚製薬は、過去30年以上にわたり結核の撲滅を目指した治療薬の研究開発を行って

<p>います。多剤耐性肺結核を対象とした新規抗結核薬デラマニドは、世界9カ国、約500名を対象とした臨床試験を実施し、2014年に欧州、日本で承認されました。現在は、米国での第Ⅲ相試験、欧州での小児を対象とした第Ⅱ相試験を実施中です。</p>
<p>エーザイは、結核に対する革新的な創薬をめざすパートナーシップ (Tuberculosis Drug Accelerator)、以下、TBDA) に参画しております。TBDAは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の支援を得て、グローバル製薬企業7社および6つの研究機関によって共同設立されたパートナーシップであり、既存の6カ月間の治療法に対して、1カ月間の服用で結核が完治しうる新しい治療薬の開発をめざしています。</p>
<p>エーザイは、ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学の共同研究施設である Broad Institute と、顧みられない熱帯病 (NTDs) および結核に対する新薬開発に向けた共同研究を行っています。</p>
<p>大日本住友製薬は、日本ビーシージー製造株式会社とともに、株式会社クリエイトワクチンを設立しました。クリエイトワクチンは、独立行政法人医薬基盤研究所とNPO法人Aerasとともに、GHIT Fundより助成を受け、ヒトパラインフルエンザ2型ウイルスベクター技術を用いた新規結核ワクチンについての共同開発を実施中です。本ワクチンは、結核菌の肺への侵入を防ぐために粘膜を標的とした粘膜免疫誘導型ワクチンであり、既存のワクチンにおいて感染予防効果の乏しい成人の肺結核に対する効果が期待されています。</p>
<p>塩野義製薬はGHITファンドによる結核治療薬の候補物探索のためのプログラムに参画し、結核研究所、TBアライアンスと現在自社ライブラリーから見出した有望化合物をもとにリード化合物を創製する共同研究を進めています。</p>

<p>マラリアに対する治療薬／ワクチンの開発</p>
<p>武田薬品工業は、Medicines for Malaria Venture (MMV)の抗マラリア薬DSM265の開発及びELQ300の製剤化について、MMVと共同研究開発を行っています。DSM265は現在第Ⅰ相試験にて良好な安全性プロファイルが示されています。ELQ300は、低用量でマラリア予防及び治療を可能にする次世代の薬剤として期待されており、現在現臨床試験段階です。</p>
<p>エーザイは、セント・ジュード小児研究病院、Medicines for Malaria Venture(MMV)と共同研究契約を締結し、マラリア蔓延地域での治療に適した、即効性と安全性に優れ、1度の服薬で持続的な治癒と再発防止も併せて期待できる新規薬剤「SJ-733」の臨床試験 (Phase 1) を実施しております。</p>
<p>エーザイは、リバプール熱帯医学校とリバプール大学との、新規抗マラリア薬の候補化合物であるE209に関する共同研究に参加いたしました。E209は、耐性が問題となっているアルテミシニン系の抗マラリア薬で効果がみられない患者様に対しても有効性を示すことが期待されています。</p>
<p>エーザイは、マラリア原虫に対する新規薬剤のターゲット分子GWT-1を見出し、それに対する阻害活性を持つ化合物を探索する初期研究を自社で行っております。この研究から見出された化合物は、現在、非営利団体Medicines for Malaria Venture (MMV)との連携により更に詳しい評価を行っています。</p>
<p>エーザイは、ブラジルのオズワルドクルス財団と、マラリアおよびNTDsに対する治療薬やワクチンの包括的な共同開発研究契約を締結しています。最初のプロジェクトとして、活性型TLR9アンタゴニストである「E6446」およびその類縁化合物を、脳マラリアの治療薬として共同研究開発を行っています。</p>

<p>フィラリア症に対する治療薬の開発</p>
<p>エーザイは、Liverpool School of Tropical Medicine および University of Liverpool</p>

と、主なフィラリア症であるリンパ系フィラリア症および河川盲目症に有効な新規フィラリア駆虫薬創出に向けた共同研究を行っています。フィラリア症を引き起こすフィラリア成虫の体内に存在するボルバキア菌は、フィラリア成虫の成長、増殖や生存に必須であり、ボルバキア菌を除菌することで成虫を効果的に駆虫する治療薬を創出することを目指しています。

シャーガス病及びリーシュマニア症に対する治療薬／ワクチンの開発

エーザイは、国際的な独立非営利団体である DNDi (Drugs for Neglected Diseases initiative) と共にシャーガス病の病原体に対する新薬候補化合物 E1224 の Phase II 臨床試験を実施しています。エーザイは、臨床開発に必要な E1224 の情報並びに臨床試験に必要な製剤を提供し、DNDiは、シャーガス病の蔓延地域において臨床開発を行っています。

エーザイは、セービンワクチン研究所、ベイラー医科大学、アエラス社と、シャーガス病に対するワクチン開発のための共同研究を進めています。本研究は、エーザイとセービンワクチン研究所との連携による、シャーガス病及びリーシュマニア症をターゲットとしたワクチン開発に関する共同研究が発展したもので、エーザイが創製した TLR4 アゴニストである新規のアジュバント（ワクチンの免疫効果を高める物質）「E6020」を含む新しいワクチン製剤の開発を目指しています。

武田薬品工業は Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)と協働して、内臓リーシュマニア症 (visceral leishmaniasis) の革新的な治療薬開発に向け、アミノピラゾール系化合物群の中から最適な化合物を特定することを目的とした「誘導体最適化プログラム」(Lead Optimization)に取り組んでいます。

アステラス製薬は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）と抗寄生虫創薬（シャーガス病）に関する共同研究を行っています。本共同研究では、まずはゲノム編集技術により、シャーガス病の原因となる寄生原虫クルーズトリパノソーマの生存に必須な遺伝子を短期間で正確に見出せるか検証することを目的としています。アステラス製薬は、主に検証に相応しい遺伝子を選択し、産総研はゲノム編集を担当します。本共同研究での検証完了後には、産総研を中心に更に大きな枠組みの中でシャーガス病の治療薬創出を目指す共同研究体制の構築も計画されています。

住血吸虫症に対する小児用製剤の開発

アステラス製薬は、Merck KGaA、Lygature、Swiss Tropical and Public Health Institute、Farmanguinhos ならびに Simcyp とともに、住血吸虫症治療薬プラジカンテル錠の小児用製剤開発を進めています。アステラス製薬は、自社の製剤技術を供与して新たな小児用製剤を創製し、Farmanguinhos に技術移転しました。コンソーシアムでは現在、第 II 相臨床試験を実施中です。アステラス製薬は、製剤開発に引き続き臨床開発においてもノウハウや技術を提供しています。この取り組みの重要性が世界から認められ、ビル&メリンダ・ゲイツ財団に加え、2015年5月には GHIT Fund から 2 度目の研究助成を得ました。

デング熱に対する治療薬の開発

武田薬品工業は、デング熱に対するワクチンを開発しています。デング熱ワクチン“DENVax”は、デング熱の原因となる 4 つのウイルス型すべてを含む 4 価ワクチンで、現在、第 II 相試験を実施中です。

マイセトーマに対する治療薬の開発

エーザイは独立非営利財団 Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi、本部：ス

イス・ジュネーブ) と、エーザイが創製した抗真菌剤 E1224 (ホスラブコナゾール) について、世界で最も顧みられない病気の一つであり、2016年に新たなNTDとして認められたマイセトマ (菌腫) の内、特にアンメットメディカルニーズの高い真菌性菌腫 (eumycetoma) に対する新規治療薬として共同開発を行う契約を締結しました。本剤を用いた臨床試験が DNDi およびスーダンのハルツーム大学菌腫研究センター (MRC) により開始される予定です。

「顧みられない熱帯病」創薬研究データベースの開発

アステラス製薬は、東京工業大学と東京大学とともに創薬研究向け統合型データベース “iNTRODB” (Integrated Neglected TROpical disease DataBase) を開発しました。iNTRODB は、リーシュマニア症、シャーガス病、アフリカ睡眠病を引き起こす3種類のトリパノソーマ原虫を対象として、それぞれのゲノム配列にコードされた全てのタンパク質を網羅し、それらの創薬ターゲット候補としての良さを判定するための各種情報 (タンパク質立体構造、関連化合物、阻害実験結果) を統合的に提示するシステムです。iNTRODB は、世界中の研究者が自由にアクセスできるデータベースであり、世界のNTDs研究の加速が期待されます。

経口コメ型ワクチンに関する共同研究

アステラス製薬は、2016年6月、東京大学 医科学研究所とコレラ、毒素原性大腸菌を対象とした経口コメ型ワクチン「MucoRice-CTB (以下、「ムコライス」)」に関する共同研究契約を締結しました。ムコライスは、医科学研究所により開発され、遺伝子組み換え技術を用いコメの内在性貯蔵タンパク質にコレラ毒素 B サブユニットを発現させた経口コメ型ワクチンです。ムコライスは室温で安定であり、簡便に製造できるなどの特徴を有しており、既存のコレラワクチンのアンメットニーズを充足することが期待されます。本契約のもと、第 I 相及び第 II 相臨床試験に関して、医科学研究所は必要な臨床試験用サンプルや試験データ等を提供し、アステラス製薬は当該臨床開発を担当します。

製薬協会会社から GHIT Fund からの研究助成を受けて海外の Product Development Partnership (PDP) と協働して取り組むその他のプログラム

武田薬品工業は MMV (Medicines for Malaria Venture) とのマラリア治療薬候補物探索、GATB (Global Alliance for TB Drug Development) との抗結核薬候補物探索のためのプログラムに参画しています。

第一三共は MMV とのマラリア治療薬候補物探索、GATB (Global Alliance for TB Drug Development) との抗結核薬候補物探索のためのプログラムに参画しています。また、NTDs (リーシュマニア症・シャーガス病) の候補物探索のためのスクリーニングプログラムに自社ライブラリー (低分子・天然物) を用いて参画しています。更に、それらから見出した有望化合物をもとに結核とマラリアにおいてはリード化合物を創製する共同研究を進めています。

大日本住友製薬は、結核やマラリア治療薬のための候補物探索のためのプログラムに参画しています。

田辺三菱製薬は結核やマラリア治療薬のための候補物探索のためのプログラムに参画しています。

武田薬品工業、エーザイ、塩野義製薬は、DNDi (Drugs for Neglected Diseases initiative) との協働による、自社ライブラリーを用いたリーシュマニア症、シャーガス病、アフリカ睡眠病の候補物探索のためのプログラムに参画しています。

5) 医療インフラの整備、人材・能力開発、ヘルスリテラシー向上の具体的事例

保健医療人材の育成・強化のための資金援助

武田薬品工業は、「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」を通じて、アフリカにおける保健医療人材の育成・強化をはかる寄付プログラム「タケダ・イニシアティブ」を実施しています。2010年～2019年までの10年間に総額10億円を寄付することとしています。

マラリア制圧に向けた取り組みへの資金提供

大日本住友製薬は、アフリカおよびアジアの数カ国において、マラリア制圧に向けた取り組みを支援しています。NPO、現地政府、地域社会と連携し、ザンビア、タンザニア、インドネシアにおける蚊帳や簡易検査キットの配布や教育支援活動、日本国内におけるマラリア啓発イベント開催への協力を行っています。

医療へのアクセス向上に向けた取り組みへの資金提供

大日本住友製薬は、途上国における医療アクセス向上に向けた取り組みを支援しています。NPOと連携して、バングラデシュでは看護師育成プロジェクトを、またハイチでは医師育成プロジェクトとともに結核検診プロジェクトへの協力を行っています。

医療へのアクセス向上のための移動診療サービス

第一三共は、インド、タンザニアにおける医師不足や病院へのアクセスが悪いなどの医療インフラが未整備な地域に貢献するために移動診療サービスを行っています。2011年からNGO、現地政府、地域社会と協力して、移動診療車を用いた乳幼児へのワクチン接種や妊産婦検診などの医療サービスの提供、並びに地域の活動を支える保健員の育成を実施しています。

MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）の製造に関する技術協力

第一三共の子会社である北里第一三共ワクチンは、ベトナムで初となる麻疹と風疹の混合ワクチンのベトナム国内製造への技術支援を行っています。

開発途上国からのフェロー受け入れと研修提供

アステラス製薬およびエーザイはそれぞれWHO-TDR（熱帯病医学特別研究訓練）プログラムを通じ、自社海外拠点などに開発途上国よりフェロー（研修生）を受け入れ、臨床開発における能力開発の研修を提供しています。

アステラス製薬は2011年よりWHO-TDRが企画する臨床研究キャリア開発フェローシッププログラムへの協賛支援を行っています。アステラス製薬の米国や欧州の臨床開発部門に研修生を受け入れ、開発途上国の感染症治療のためのキャパシティビルディングを目的とした医薬品の臨床開発に関するマネジメントスキルの職業訓練を提供しています。2014年7月にはエチオピアからの研修生1名が研修を修了しました。2015年10月には、3人目となる研修生を研究開発部門へマリ共和国から受け入れており、2016年9月まで研修を提供する予定です。

エーザイでは、Eisai Inc.（米国拠点 ニュージャージー州）にて、2010年にナイジェリアから、2011年にコロンビアからの研修生を受け入れ、臨床開発や臨床試験のマネジメントスキル取得の研修を実施しました。帰国後はそれぞれ母国での感染症の診断と治療や治療薬の開発に指導的な役割を果たしています。さらに、2015年には、東京本社にリンパ系フィラリア症蔓延国であるインドネシアから医学生インターンシップを受け入れ、リンパ系フィラリア症制圧活動に関連する研修を実施し、人材育成を通じた制圧支援をしております。

感染症薬の適正使用推進への取り組み
塩野義製薬は「新たな感染症治療薬を継続的に医療現場にお届けすること」を使命の一つと考えており、その使命を果たすため、創薬・製造・販売活動を行ってきました。特に塩野義製薬は感染症薬の適正使用にも拘り、2010年に先ず日本で感染症薬適正使用推進室を立ち上げ、創薬のみならず感染症治療薬の使い方の重要性を医療従事者の方々と一緒に議論してきました。現在、日本と同様に台湾・中国およびシンガポールの子会社にも組織を立ち上げ、KOLともディスカッションを開始し、感染症薬の適正使用の推進に向けて正しい知識の普及や販売活動を行っています。

IDEEL プログラム (International Diabetes Education E-Learning Program)
武田薬品工業は、国際 NGO プロジェクト・ホープと連携し、「IDEEL プログラム」を他国へ導入する活動を支援していきます。「IDEEL プログラム」とは、途上国の医療従事者に向けて、糖尿病に関する e ラーニングを行うものです。

認知症の診断技術の向上／疾患啓発の提供
エーザイは、インドにおいて、認知症の早期発見・早期治療を促すために、全国でメモリークリニック（もの忘れ外来）の開設を支援し、医師の教育プログラムや疾患啓発を行っています。

スマートフォンを活用した、過活動膀胱の啓発／患者教育支援プログラムの提供
アステラス製薬は、いまだ疾患への理解が乏しい「過活動膀胱」に関し、世界中からアクセス可能なスマートフォン用疾患啓発/患者教育支援プログラムを提供しています。本プログラムは、疾患・病態の理解、症状改善のための運動指導、日々の症状の記録などを通し、患者さん自身が理解を深め、自ら疾患コントロールに取り組めることを目的としています。

Action on Fistula
「Action on Fistula」はアステラス製薬が資金提供を行い、慈善団体であるフィスチュラ基金が実施している泌尿器疾患領域を対象とする3年間のプログラムです。プログラムが完了する2017年までに、ケニアにおいて1,200名以上の産科フィスチュラ患者さんの生活を改善し、その後も手術による治療を提供できるよう医師を研修することを目標としています。この活動により、ケニアにおけるフィスチュラ治療のネットワークが確立し、フィスチュラ担当外科医が増え、手術の実施件数が大幅に増加しています。2016年4月末までに、ケニアのフィスチュラ患者さん1,210名が手術により完治しています。さらに、地域の医療従事者とともに大規模な疾患啓発プログラムを展開し、患者さんが治療を受けるようコミュニティに働きかけています。

母子の健康改善に資する活動
第一三共は国際 NGO プラン・インターナショナル・ジャパンと協働し、中国で发育障害児童の多い雲南省の農村地区を対象に、母子健康改善に資する保健人材の育成と地域住民に対する保健教育活動に取り組んでいます。
塩野義製薬は「Mother to Mother」の活動を通じて、日本のお母さんの健康維持増進を応援すると共に、総合ビタミン剤「ポポン S®」シリーズの売り上げの一部と全社員からの寄附をもとに、ケニア共和国 ナロク県 イララマタク地域の妊産婦・新生児・乳幼児の健康につながるよう、当地域の医療面での自立をサポートしていきます。なお、本プロジェクトは国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパンの協力により実施されています。

